

職員による自己評価

保護者による評価

A 「適切な支援の提供について」

・個々のお子さんの発達段階や特性を理解して、優先順位をつけながら個別支援計画書の目的や支援内容を保護者と日々の療育の中で深めていく。

B 「適切な支援の提供について」

・個々のお子さんの発達段階や特性に合わせてお子さんが楽しく、達成感持てるプログラムになるようバリエーションの幅を広げていく。

C 「保護者同士の連携」について

・コロナ禍から「親の会」の活動は増えたが、クラスを超えての繋がりの方が好評だった為に回数や実施時期の改善がニーズにあがる。

D 「非常時等の対応」について

・保護者も参加する毎月の地震や火災を想定した訓練を実施しているが、あらゆる火元を想定した訓練、また、不審者対応など、職員の動きのマニュアル化、見直しが必要。

A 「適切な支援の提供」について

・「活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか」に対して「どちらとも言えない」が11の回答。集団のプログラム、個の活動プログラムに対して固定していると感じる。

B 「保護者への説明等」について

通園の親の会では、活動内容を大幅に広げているが、保護者個人は保護者同士の繋がりの方を求められている方も多い。

C 「非常時の対応」について

コロナ禍においても、避難訓練の目的の伝達や保護者も一緒に参加する場面を増やしたことで、「はい」の回答が増えたが、頻度や説明が少なかったとの意見もある。また、台風の日マチコミが混線し繋がらなかった事に関しての意見も多かった。

D 「満足度」について

・ほとんどの方が満足というご意見をいただいた。

事業所内での分析

○適切な支援の提供に関して、親子通園で通って来ていただいている中で、大半の方から「満足」の評価を頂いたが、プログラムの充実に関しては固定されている印象を持たれる方もいる。お子さんの発達段階や障害特性に合わせて、個人への課題や集団のプログラム内容をチームで再確認して必要性を感じる。職員間で話し合いクラスを超えて共有してきましたが、プログラムの種類を増やすだけでなく、個や集団へのプログラムの目的と、今後の見通しをどのように考えているか、保護者と共有することが必要と感じる。

○プログラムの充実について、バリエーションのあるプログラムをお子さんの状態に合わせて回数や時期を再確認していくことを確認すること。また、発達段階に合わせた環境設定ができているとのご意見があった。引き続き保護者の方と課題の共有ができるように、療育の目的や今後の見通しも含め確認していくことが必要と思われる。

○非常時の対応に関しては、月1回の避難訓練を設定しているが、登園頻度により実施月に当たらない方もいるのが現状。避難時の対応に関して、均等に訓練実施が出来るよう設定していくと共に、地震・火災以外の不審者対応なども想定した避難訓練の実施に向けて、センター全体で取り組む必要がある。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、障害特性についてその場で解説しながらお子さん特性を共有できる。また、発達段階や障害特性に合った関わり方を、保護者とコミュニケーションをとりながら、実践につなげていける。保護者の集団化することで保護者同士のつながりや仲間づくりの場を担っている。
- 集団の中でも担任以外のスタッフと情報を常に共有することができ、タイムリーに個別に対応していける。担任以外の職種からの専門的な意見を担任を通して、フィードバックすることができる。
- お子さんに対する支援は構造化された環境の中で、個々のお子さんが見通しをもって安心して活動に参加し、達成感が持てる取組みをとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように集団の中で個別の理解や興味、ペースに合わせた環境設定や関わりができる。
- 防災対策に力を入れており、1階の地域ケアプラザと合同で訓練を実施する等、万一の災害発生に備えている。通園では月1回保護者も含め避難訓練を行っている。

事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加、民間児童発達支援の増設等、保護者のニーズが多様化していることから、障害の重いお子さんがいる家庭や地域生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援において連携をとっていくなど充実を図ることが必要となる。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、親子通園の目的だけでなく1年間～3年間の療育の親子の見通しを今以上に明文化し、保護者と共有していくことが求められる。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりましたが、改善点のご指摘いただいた課題もありましたので、利用者の方に満足していただけるように改善に努めていきたいと思っております。今後も療育の質を高め、保護者からより一層信頼される事業展開を行ってまいります。

事業所名 横浜市北部地域療育センター

担当者 園長 平安寺晴美

職員による自己評価

保護者による評価

A 「業務改善」について

- ・医療型児童発達支援のクラスは、担任間の連携、診療職種との適切な連携をより密に行い、合同プログラムを行うなどを情報共有も必要である。

B 「適切な支援の提供」について

- ・子どもの状態像や障害種別が多岐にわたるため、お子さんの状態像や課題を考慮しながら他職種との連携を密に行い支援を行っている。

C 「関係機関との連携」について

- ・併用している園や学校、他事業所の先生に通園の療育に参加していただく「療育参観」の機会が有効であり引き続き実施していきたい。また必要に応じて園訪問実施によりさらに連携を深めていきたい。

D 「保護者への説明責任等」について

- ・個々の状態像に合わせた支援の目的を保護者に明確に説明していけるよう、通園職員内での方向性を統一していく

E 「非常時等の対応」について

- ・保護者も参加する地震や火災を想定した訓練を毎月実施しているが、今年度は改装工事の為同じ場所への避難が多かったが、いくつかの経路や場所の避難を現実的に実施したい。

A 「適切な支援の提供」について

- ・「個別支援計画書に沿った支援が行えているか」「プログラムが工夫されているか」の項目について、ほぼ全員が「はい」と回答しており高い評価を得られている。

B 「保護者への説明等」について

- ・ほとんどの方が、適切な説明が出来るに「はい」としている。通園では今年度、親の会主催の保護者同士の活動や茶話会を昨年より増やして実施することができた。

C 「非常時の対応」について

- ・ほとんどの方が「災害のインフォメーション説明や非常災害に備えた訓練が行えているか」について「はい」の回答だが、頻度の少ない方は訓練回数も少なく「いいえ」との回答もあった。

D 「満足度」について

- ・「センターの支援に満足しているか」は「はい」との回答がほとんどだが、「預かり時間が短い」とのご意見もあった。

事業所内での分析

○今回のアンケートでは、ほとんどの項目に「はい」が多く、高い評価をいただいた。民間の児童発達支援との大きな違いは、親子で通園していただき、お子さんの特性や対応を共有し、ご家族以外の人に伝える準備をしているが、2歳から4年間長く通う方もいる中では、保護者同士の年齢を超えた立てのつながり・クラスを超えた横のつながりが持てるような場の設定をすること、また、保護者の方がお子さんと一緒に楽しめるプログラムの工夫や開発を行い、バリエーションを増やしていくことが今後も必要と感じる。

○要医療重心児のお子さんが、安全に遊びの経験が出来るよう、また1年単位で元気に継続して通っていくことができるように、看護師を含む他職種と連携して、環境や支援内容の充実を図っていく必要がある。保護者の想いや願いを尊重しながら、通園だけでなくセンター全体で支援できる内容を検討し保護者と共同で療育を進めていきたいと思う。

○保護者とのコミュニケーションを引き続き積極的に図り、必要な情報提供や説明等を丁寧に行っていく。また、お子さんの状態が多岐にわたる為、お子さんの状態像を十分に把握し、姿勢・食形態などの関わりの個別化を安全に行える構造を引き続き確立していく必要がある。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、その場でお子さんの様子を見ながら、障害特性について職員が解説することが出来、保護者がお子さんへの理解を深めながら、特性に合った関わり方を実践でき、就学に向けてお子さんの特性を言語化できるようになる。
- 福祉と医療の一体運営をしているため、担任だけでなく、様々な職種による専門性を集団療育に取り入れながらチームアプローチを行い、チーム間による一貫した療育を実施できる。
- お子さんに対する支援は、お子さんの障害特性または健康状態に合わせて、個々のペースや必要な構造化された環境設定の中で、お子さんが見通しをもって安心して安全に活動に参加し、達成感が持てる取組をとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるようにお子さんに合わせて働きかけている。
- 保護者同士のつながりが持てるよう、コミュニケーションがとれる環境設定を通園入園時期に合わせて設定している。

事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、保護者のニーズが多様化していることから、個々の家庭状況やお子さんの状態に合わせ、頻度や療育方針を設定していくこと。また、2歳児から通園に親子で通う中、4年間の中で親子通園で何を目指していくのかを明確にし、保護者・職員の共通認識を持ちながら療育を進めていくことが必要。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、地域の関係機関と密接に連携した体制強化が必要。センター内の関係職種にとどまらず、幼稚園・保育所・学校・子育て支援・区・医療関係・民間児童発達支援等々と連携し、家族に合ったサービスを具現化していくことを積極的に行っていき、家庭生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援について充実を図ることが必要となる。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりましたが、改善点のご指摘いただいた課題もありましたので、利用者の方に満足していただけるように改善に努めていきたいと思っております。今後も療育の質を高め、保護者からより一層信頼される事業展開を行っていきたく思います。

事業所名 横浜市北部地域療育センター
担当者 園長 平安寺晴美

職員による自己評価

保護者による評価

A 「適切な支援の提供」について

- ・事業所内に十分な広さの運動スペースがないことから「ラポール新横浜」のサブアリーナで月1程度運動プログラムを実施。子ども達が体を思いきり動かし、様々な体の使い方を経験できるよう工夫している。また、個々に適切な課題設定及び支援を行うため担任間で毎日振り返りのミーティングをとっている。また、必要時間関係職種ともカンファレンスを行い、お子さんの支援方針を確認している。

B 「保護者への説明責任等」について

- ・限られた時間内で、その日の振り返りや個別に相談する時間を設け、個々にお子さんの状況等を確認、共有し、障害特性の理解を深めるよう努めた。ただ、まだコロナ禍で、クラスの保護者が全員が揃う時間が、充分とれていたとはいえ、保護者同士の連携を十分には支援できていなかった。

C 「非常時等の対応」について

- ・非常時の対応については、年度初めの説明会にて「ご利用のしおり」をもとに説明を行っている。また今年度は年に2回、職員と利用者として避難訓練を実施した。

他 「関係機関との連携」について

- ・児が併用している園への訪問を必要時行い、お子さんの現状の共有や支援の助言を行っている。

A 「適切な支援の提供」について

- ・「個別支援計画書に沿った支援が行われているか」「プログラムが固定化しないよう工夫されているか」の項目について回答者全員が「はい」と回答しており、今年度も高い評価が得られた。

B 「保護者への説明等」について

- ・「支援内容が説明されているか」「お子さんや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか」「定期的クラスのお便り等が発信されているか」の項目に、ほぼ全員が「はい」と回答しており、必要な情報提供の評価が得られている。一方で、今年度もコロナ禍で、「懇談会の開催等により保護者同士の連携が支援されているか」の項目は「どちらともいえない」に7の回答があり、十分な満足度ではなかった。

C 「非常時の対応」について

- ・「災害・緊急時のインフォメーションについて、保護者に周知・説明されているか」「非常災害に備えた訓練が定期的に行えているか」については、全員が「はい」の回答。

D 「満足度」について

- ・「子どもは通所を楽しみにしていますか」「センターの支援に満足していますか」の項目に全員が「はい」の回答であった。

事業所内での分析

- お子さんが毎回の通所を楽しみにし、「達成感」を感じられるように、プログラムの工夫を行っていることで高い満足度を得られている。
- 日頃から個々にお子さんの状況を保護者と職員とで伝え合い、発達の状況、課題について共通理解が出来ている。一方、今年度もコロナ禍で、クラス保護者全員が揃う時間が充分に取れていたとはいえ、保護者同士の連携を支援することは次年度以降、課題である。
- 個別支援計画書は、お子さんと保護者のニーズや課題を分析した上で作成が出来ている。
- 事業所は本体である北部地域療育センターから離れているが、センターにいる他職種とも必要時連携をとりながら進めている。
- お子さんの必要に応じて、保護者の希望や園の希望も確認しながら、お子さんが通う幼稚園・保育園との連携を行っている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面を行っており、療育場面に保護者も参加することにより、保護者がお子さんの持つ障害特性について理解を深めることができる。
- 福祉と医療が一体で運営しているため、担任だけでなく、様々な職種によるチームアプローチによる一貫した療育が実施できる。
- お子さんに対する支援は構造化された環境の中で、個々のお子さんが見通しをもって安心して活動に参加し、達成感が持てる取組をとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように働きかけている。

事業所の改善点

- 事業所を利用するお子さんの家庭生活や地域生活がより安定したものになるように引き続きお子さんへのよりよい支援を行うとともに、保護者支援、地域支援についても充実を図りたい。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するために、これまで以上に地域の関係機関と密接に連携した体制強化が必要。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果は、今年度も多くの項目で高い評価を頂き、大きな励みになっております。今後も利用者の皆様に満足していただけるよう、改善すべき点は改善し、サービスの向上に努めていきたいと思っております。今後も保護者の皆様から、より一層信頼される事業展開を行ってまいります。

事業所名 横浜市北部地域療育センター

担当者 園長 君島美和